

平成二十二年六月二十七日

日曜日 斗宿 午前十時開式

道場 相模國天應山 千手院
導師 第二十世住職 川上修詮
職衆 府中國蓮花寺 伊藤彰道

千手院本堂上棟式次第

設計 伊藤平左工門建築事務所
根岸広人一級建築士
大工 番匠井上 井上俊仁棟梁

編集 川上修詮

先 工匠と僧侶の入堂 木遣り唄

次 着・辨・念・焼・衣・香・護身法

次 洒水加持 奠供（四智梵語鉢三十）

次 加持供物 珠呂を置く

オンハンダ キャリシヤユ バザラウン

次 地結

オン キリキリ バザラバジリ ホラマ

ンダ マンダ ウン ハツタ

次 四方結

オン サラサラ バザラ ハラキヤラ

ウン ハツタ

次 虚空蔵

オン アリ キヤマリボリ ソワカ

次 結界 不動劍印 十方結界

次 珠呂を取り 金二丁

棟^{むね}梁^{はり}椽^{たるき}柱^{はしら}等 功德聚集 堅固不朽
ならしめんが為に

オン マニ バザラ ウン 宝樓閣印

次 珠呂を取り 金一丁

一字諸具 悉く皆円満恒紗 功德円満せ
しめんが為に

アビラ ウン ケン 外五古印

次 香・花・供物 一々を供ず

次 祈願文

謹み敬つて 真言教主 大日如来 両部

界会 諸尊聖衆 殊わに別いては 本尊聖
 者千手觀世音菩薩 総じては 尽空法界
 一切三宝に白して言さく

去いにし日を選び 信心の千手院本堂建設
 委員会は 此の良き土地にて 神々の許
 しを得る為の 地鎮とこしずめの祀りを行いてよ
 り 大工おおたくみの元に木工こたくみは心を合わせ 一

日たりとも休む事なく心を込めて 柱はしら

桁けた棟むね梁はりを設とこのえ 打すみなわつ墨繩すみなわに狂うろわい無く

打ち振ちようなるう手斧ちようなの損うろわなう事無く 麗うるわし

く仕上はればれがりし今日の良き日に 清はればれ々しき

大空に向かい 一段と大声を張り挙げて
 曳はればれき上げる棟木 打はればれつ一番掛矢の声高く
 棟上げの儀を修し奉るなり

仰はればれぎ願はればれわくは 本尊を始め地天並びに部
 類眷属 此の願主の真心を哀愍納受せら
 れ 御はればれ仏はればれのご加護たごを垂れ給わりて
 工たくみのわざ事あやまを過たごつ事なく違たごう事なく いいさき

さかの障さわ害りなく 勤いそしみ励む匠らに災
いなく麗うるわしく栄作竣工つくりおえますまで 工事
安全 災難消除 堂宇堅固 無魔竣工成
らしめ給え 乃至法界平等利益

次 御札開眼作法 佛眼等 常の如し

次 法樂 (般若心經・光明真言・大師宝号)

日天 オン アニチャヤ ソワカ

月天 オン センダラヤ ソワカ

地天 オン ビリチビエイ ソワカ

梵天 オン ボラカンマネイ ソワカ

本尊・不動明王・地藏

大金剛輪・一字金輪・佛眼小呪

次 願わくは この功德を以て 遍く一切に
及ぼし 我らと衆生と皆共に 仏道を成
ぜん

次 三部 被甲護身 金二丁

次 工匠式（宮大工棟梁と鳶職頭の音頭で）
曳網の儀・鳴弦の儀・四方の儀

次 挨拶（住職と建設委員会会長の謝辞）

次 工匠と僧侶は退堂 木遣り唄

次 紅白餅を散ず（当日は手渡し）

次 祝宴（祝い膳を囲んで大工の慰労会）

次 棟梁送り 木遣り唄

以上